

海域の生物調査

1 調査項目

東京都内湾において、底生動物、付着動物、魚類、鳥類について調査を行った。

2 調査地点及び回数(表2- - 1、図2- - 1)

底生動物 環境基準点 8 地点 その他地点 8 地点 計 16 地点 年 2 回

付着生物 付着調査 中央防波堤外側(その2)、13号地船着場 年 1 回

魚類 ビームトロール 4 地点 年 4 回

小型地曳網 3 地点 年 1 2 回

鳥類 4 地点 年 2 4 回

3 調査内容

底生動物、付着動物、魚類は分類同定・個体数計測・重量測定を行い、pH、COD、DO等の分析をあわせて行った。鳥類は分類同定、個体数計測及び採餌行動等の観察を行った。

4 地点別調査結果の概要

底生動物は5月、9月の調査で合計92種、付着動物は51種、魚類はビームトロール4種、小型地曳網は54種、合計58種が確認された。鳥類は55種が確認された。魚類ではクルマサヨリ、鳥類では葛西沖人工渚でクロツラヘラサギとカワセミが、森が崎の鼻でサルハマシギ、12号地貯木場と森ヶ先の鼻でクロハラアジサシが調査開始以来初めて確認された。

各調査地点の概要は以下のとおり。なお()内は調査項目、水深及びCODはこだわりのない限り、公共用水域水質測定結果の11年度平均値である。また、生物調査結果を総括したものを表2- - 2に示した。

・St. 5 [内湾C類型](底生動物)

水深 11.0m COD 4.8mg/L

底生動物は、4月調査で17種が採集され、9月は2種で昨年度とほぼ同じ。4月、9月とも優占種は多毛類の*Paraprinospio* sp. type Aであった。

・St. 6 [内湾C類型](底生動物)

水深 11.7m COD 4.7mg/L

底生動物は4月調査で20種、9月調査では無生物であった。昨年度とほぼ同じ。

・ **St . 1 1 [内湾 C 類型] (底生動物)**

水深 1 6 . 7 m COD 4 . 6 mg / L

底生動物は 4 月調査で 1 2 種、 9 月調査で 2 種採集された。 4 月調査の優占種は *Paraprinospio* sp . type A であった。

・ **St . 2 3 [内湾 C 類型] (底生動物)**

水深 6 . 2 8 m COD 4 . 3 mg / L

底生動物は、 4 月調査で 1 0 種、 9 月調査で 1 2 種と、昨年度と比べ大きく減少した。これはそれぞれの調査前月に降雨が多く、淡水の影響が強くなったためと考えられる。

・ **St . 8 [内湾 B 類型] (底生生物)**

水深 6 . 3 6 m COD 4 . 2 mg / L

底生動物は、 4 月調査で 2 1 種、 9 月調査で 2 種採集された。優占種は 4 月、 9 月とも *Paraprinospio* sp . type A であった。

この地点は荒川河口に位置し、水深が浅く、底生動物は種類数、個体数ともに内湾としては比較的多く採集される。

・ **St . 2 2 [内湾 B 類型] (底生動物、ビームトロールによる魚類)**

水深 1 4 . 3 m COD 4 . 0 mg / L

底生動物は、 5 月調査で 7 種、 9 月調査は無生物だった。魚類調査では、アカエイ、ハタタテヌメリが採集された。

・ **St . 2 5 [内湾 B 類型] (底生生物、ビームトロールによる魚類)**

水深 1 6 . 3 m COD 4 . 1 mg / L

底生動物は 5 月調査で 1 5 種採集された。 9 月調査は無生物だった。 5 月の優占種は *Paraprinospio* sp . type A であった。魚類はコモチジャコとハタタテヌメリが採集された。

・ **St . 3 5 [内湾 B 類型] (底生動物、ビームトロールによる魚類)**

水深 2 5 . 5 m COD 3 . 7 mg / L

東京都の調査地点の中でもっとも沖合にあり、水深の深い地点である。

底生生物は 4 月調査で 7 種採集されたが、 9 月調査は無生物だった。魚類はハタタテヌメリが採集された。

・ **St . 1 0 [内湾 B 類型] (底生生物、ビームトロールによる魚類)**

水深 7 . 2 5 m COD 2 . 3 mg / L

比較的水深が浅く、生物種が豊富な地点である。底生動物は 4 月調査で 3 8 種、 9 月調査は 1 6 種採集された。 4 月の優占種は *Lumbrineris longifolia*、 9 月の優占種は *Paraprinospio* sp . type A であった。魚類はアカエイ、ハタタテヌメリ、マコガレイが採集された。

• St. 31 [内湾C類型・多摩川河口](底生生物)

水深 2.1 m COD 3.2 mg/L

多摩川河口の地点。水深が浅く、調査船の接近が難しい。底生生物は4月は24種、9月は16種採集された。4月の優占種はアサリ、9月の優占種はニホンドロソコエビであった。

• No. 12 [内湾C類型・朝潮運河](底生動物)

水深 5.1 m COD 4.6 mg/L

生物調査における唯一の運河部の地点である。底生動物は4月は14種採集された。9月は無生物だった。4月の優占種はシズクガイであった。運河は水深が浅いにも関わらず、夏期には底層の溶存酸素が無くなり、生物はほとんど生息できない。

• 三枚洲(底生動物)

水深 5.7 m COD 5.0 mg/L (水深、CODとも底生動物調査時2回の平均)

旧江戸川河口部の水深が浅い地点で、二枚貝などの生物が多く、鳥類が多く集まる地点である。底生動物は4月調査では31種、9月調査では2種が採集された。第一優占種は4月、9月とも*Paraprionospio* sp. type Aであった。

• 葛西沖人工渚(底生動物、小型地曳網による魚類、鳥類)

COD 4.1 mg/L 底生生物調査時2回の平均。

人の立ち入りを禁止している地点で、鳥獣保護区域となっている。底生動物は、4月調査では9種、9月調査では3種採集された。優占種は4月はイトゴカイ科、9月はゴカイであった。魚類は28種採集された。例年、エドハゼ、アユの稚魚が多く採集されるのが特徴である。鳥類は51種類が観察された。年間優先度の高い種はカワウ、スズガモ、ウミネコ等である。

• お台場海浜公園(底生動物、小型地曳網による魚類、鳥類)

COD 4.6 mg/L

臨海部開発により、高層ビルやレジャー施設が建ち並び、休日は散策する人々が多い。

底生動物は、4月調査で12種、9月調査で9種採集された。優占種は4月はイトゴカイ科、9月はアシナガゴカイ科であった。魚類は35種が確認された。毎年、4月にマハゼの稚魚が多く確認されている。鳥類は年間26種が確認された。第6台場にカワウが多数営巣しており、カワウの出現が多い。

• 城南大橋(底生動物、小型地曳網による鳥類)

COD 7.3 mg/L

底生動物は4月は9種類、9月は7種類が採集された。優占種は4月は*Pseudopolydora* sp. 9月はアシナガゴカイ科であった。魚類は38種で、他の地点で採取されていないシログチやクルマサヨリが採集された。

・ **森が崎の鼻（底生動物、鳥類）**

COD 9.2mg/L

底生動物は、5月調査は15種類、9月調査は5種類が採取された。優占種は4月はイトゴカイ科、9月はゴカイであった。鳥類は年間47種が確認された。ゴカイ類などの餌が多く、シギ、チドリ類の良い採餌場所になっている。

・ **12号地貯木場（鳥類）**

鳥類は35種が観察された。年間有占度が最も高い種はスズガモ、ついでセグロカモメであった。近年貯木量が減り、材木上で休息している鳥類が減ってきている。

・ **中央防波堤外側（付着動物）**

水深 6.2m COD 5.5mg/L

新海面処分場の工事のため、8年度から調査地点を南側から東側へ移動した。

付着動物は、潮間帯で21種、潮下帯で28種で、潮下帯での種類数が増加した。個体数による第1優占種は潮間帯はコウロエンカワヒバリガイ、潮下帯はイソギンチャク目であった。

・ **13号地船着場（付着動物）**

水深 8.9m COD 7.3mg/L

付着動物は、潮間帯で25種、潮下帯は24種。個体数による優占種は潮間帯はコウロエンカワヒバリガイ、潮下帯はアメリカフジツボであった。